



# Safety Mail

● 滋賀県警察本部交通企画課 ●

## 県内の交通事故発生状況

《平成30年9月末現在の人身事故》

	件数	死者	傷者
本年	3,096	28	3,937
前年	3,562	38	4,522
増減	-466	-10	-585

### 〈高齢者の事故〉

※高齢者…65歳以上をいう

	件数	死者	傷者
本年	872	15	516
前年	992	18	585
増減	-120	-3	-69



薄暮時間帯は、例年、交通死亡事故が多く発生しています。この時間帯は、周囲の視界が徐々に悪くなり、自動車や自転車、歩行者などの発見がお互いに遅れたり、距離や速度がわかりにくくなるためです。

自動車運転者は前照灯の早め点灯を行うとともに、歩行者や自転車利用者は明るい服装をしたり、反射材・ライトを活用し、自分の存在を周囲に知らせるようにしましょう。(※薄暮時間帯とは、日没時刻の前後1時間をいいますが、日没時刻は月日や都道府県により異なります。)



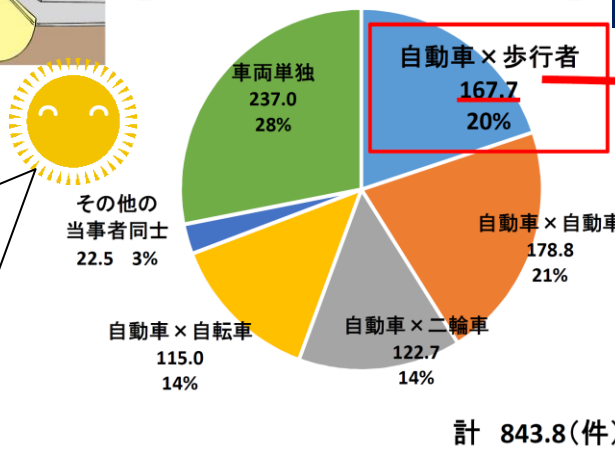
## 時間帯における死亡事故は昼間の4倍！

昼間・薄暮時間帯別の時間当たりの当事者別死亡事故件数(平成25年～平成29年)

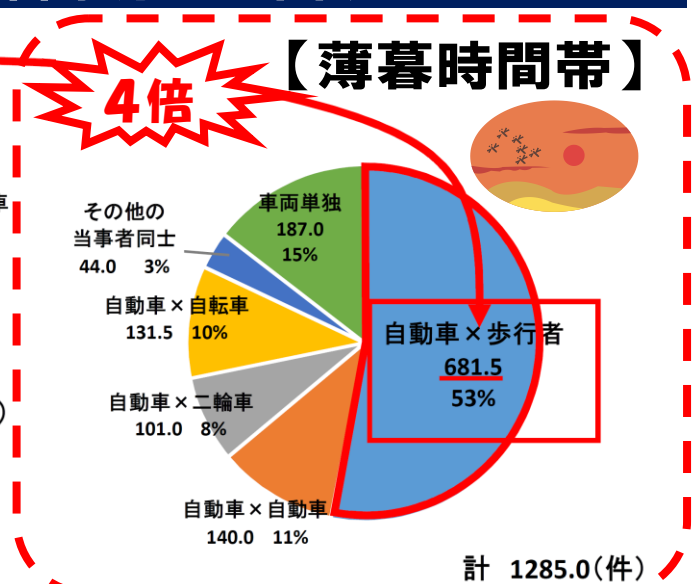
【昼間(薄暮時間帯を除く)】

警察庁の全国調査によると…

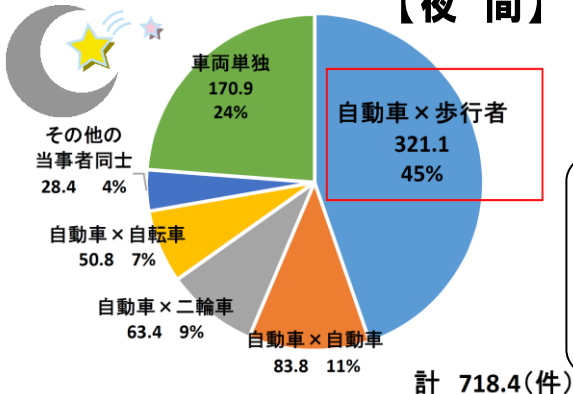
昼間は自動車と自転車の事故が多い！



### 【薄暮時間帯】



### 【夜間】



歩行者は、**反射材の着用を！**  
 黒い服装では、ドライバーからは見えません。  
 ドライバーは**早め点灯**とハイビーム切替え運動を！



(注) ・件数は過去5年間(平成25年～平成29年)の累計であり、昼間・夜間は11時間、薄暮時間帯は2時間として算出。  
 ・「その他の当事者同士」とは、二輪車×二輪車、自転車×自転車等の死亡事故をいう。



私は死亡ひき逃げ事件を起こしました。車道を歩いている歩行者と接触、救護も通報もせずその場から逃げました。そして、その約3時間後に被害者の方は亡くなられてしまいました。私は「人殺し」になってしまったのです。

現場は自宅近くの住宅街の片側一車線の直線道路でした。そして反対車線には歩道がありました。時間は夜の9時過ぎで、街灯がありましたが、薄暗い状況でした。被害者の方は、路肩の雪を避け、車道内を歩いていました。私は時速40kmで走行していました。ポケットに入れていた携帯電話の受信音が鳴り、ほんの数秒間、視線を携帯電話へと向けました。携帯電話に目を向ける前は、前方に誰もいないと認識していましたが、再び視線を前方に戻した時には、車の左前の避け切れない距離に人が見えました。咄嗟に右にハンドルを切りましたが、避けることができず、接触してしまいました。接触後、ぼう然としましたが、すぐに車を止めず、50m程先の路肩に停車しました。私は後ろを振り返りましたが、離れた上に、薄暗い事から何も見えなかったことや、恐怖心と現実逃避したい気持ちから、「もしかしたら、大したケガをしていないのではないか」などと自分勝手に考え、現場から立ち去りました。家に帰るまでの十数分間に「戻らなきゃ」と何度も思ったのですが、その場から逃げてしまいたい恐怖心が強く、そのまま自宅まで戻ってしまったのです。しかし、やっぱりこのまま逃げ続けて生きて行くことは出来ないと思い、現場に戻り、自首しました。通り掛かった方が、警察と救急に通報して下さいました。そのまま逮捕、取り調べとなりました。

その後の裁判で、懲役1年10月の判決が下されました。私自身、そして皆さんが「短い」と思われるでしょう。ご遺族の方には、納得いかず、やり切れない思いを抱かせてしまったと感じています。手紙での謝罪、そして私の両親が直接、ご遺族の方に謝罪をさせていただきましたが、私が直接、ご遺族の方に謝罪する事もご仏前にお線香を上げさせて頂くことも出来ていません。また、お見舞い金を送らせていただきましたが、受け取っていただけませんでした。大切なご家族の命を奪った人間とかかわりたくないのは当然です。また、私が逆の立場であれば同じ心情になるでしょう。私はニュース等で「ひき逃げ事件」を自にし、「なんて無責任で身勝手な奴らだ」また刑期に対しても「人を殺してこんなに短いのか、こんな奴等なんて死んで償えば良いのに」と感じていました。しかし、実際にニュースで見ていた事と同じ状況になった私は、「そんな奴等」と同じ過ちを犯したのです。まさか自分が「事故」を起こし、「事件」へと変えてしまうとは全く考えていませんでした。

これは皆さんも同じ事だと思えます。でも、可能性はハンドルを握る全員に等しくあるのです。交通違反が多い人も、ゴールド免許の人も変わらずに同じだけ交通事故を起こす可能性があるのです。当たり前すぎて自覚している人は少ないのではないのでしょうか。少し思い返してみてください。過去に「おっと、危ない」と運転中に思ったことはありませんか。人それぞれ、大なり小なりいくつかある事かと思えます。もちろん、私もありました。今回と同じように脇見をして、前の車に近づき過ぎたり、自転車や歩行者を見落とし、接触しそうになったりしたことがいくつもありました。「危なかった。気を付けないと」と、その時は思っていました。また、ギリギリ、間一髪でセーフだったということもありましたが、「自分は何かあった時も対処出来る」という間違った自信や安心感を生んでしまったのだと思います。本当は私の運転に対する警告だったのに気付く事なく、同じ行動を取り、今回の事件を起こしたのです。そう考えてみるとどうでしょう、あなたもすぐ近くに危険があると感じませんか。ハンドルを握る全員にこの事を自覚して欲しいです。いつかの「今」があなたの「今」になっているのです。慢心運転をしていれば、私のような「今」になってしまいます。直接謝ることさえ、簡単には出来ず、謝ったとしても一生許される事のない罪。この手記を読んでくださったみなさんにそれを背負って欲しくもありません。突然、大切な家族を奪われる人達も増えて欲しくもありません。

運転をする時は、ほんの一瞬でも、気を抜いてはなりません。何の罪も無い無関係な人達の「今」を奪ってしまわぬように、確実に安全な「今」を築いてください。当事者になった私からの思いです。被害者の方、ご遺族の方。そして家族、親戚、友人、会社。周りの全ての人達を悲しみに落とし入れてしまいます。私はその罪を一生背負い、何をする事が償いになるのかも分からず、人生を償いとして生きていきます。これがいつかの「今」の延長線です。

(一財) 東京交通安全協会 「贖(あがな)いの日々」より

事業所内に掲示するなど、多くの方々にご覧いただけるようご協力ください。

TEL 077-522-1231 (代表)

Eメール x0022@police.pref.shiga.jp